



# The Star in the West

## 東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 「On the Move!!」「さあ 動こう!!」
- アジア会長主題 「With Pride and Pleasure」「誇りと喜びを持って」
- 東日本区理事主題 「みんなで力を合わせて、1・2・3」
- あずさ部部長主題 「入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために！」
- 東京西クラブ会長主題 「いつも自然体で！ 楽しい例会参加を」

### 2020年4月号

NO 523

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい、休ませてあげよう。  
マタイによる福音書11章28節

### 私たちに今求められているものは 大野貞次

### 5月WHOの中止

新型コロナウイルスの感染が3月よりもさらに広がりを見せ、社会生活も制限されていく現状です。

実は4月1日をもって担当主事の木川拓さんが人事異動のためYMサービス株式会社に出向となり、新しい担当主任に横山弥利(よこやまやすとし)さんをお迎えした4月例会を開く予定でしたが残念ながら開催を断念しました。

例会を開くことが出来ないのは、残念なことですが仕方ありません。5月例会が開催できることを祈るばかりです。

今、私たちが守らなければならないのは自分の健康ですね。

無理に外出をして新型ウイルスに感染しては元も子もありません。多くの方々に迷惑を掛けてしまいますので、我慢が大切です。

特に4月に入り東京都では感染

が増加し、ついに1日に100人以上が感染し、感染が収まる気配はありません。それによりワイズで予定していた行事も次々に中止または延期になる事態です。これからの時期、不安でなりません。5月の例会では皆様と笑顔で再会したいものです。

今までお世話になった木川拓さんは、YMサービスにしばらく出向となります。そこで主に社会体育保育学校の卒業生を対象とした人材紹介のサポートビジネス「ミライズ」を4月から立ち上げました。

新担当主事の横山さんはホテル学校の卒業生でもあります。1昨年まで社会体育・保育専門学校に5年間勤務をして、その前はホテル学校で主に広報・入学相談室の担当をされていました。心より歓迎いたします。



WHO ウォーキングも3月に続き、4月、5月を中止して、『WHO リポート』で通知しました。

横浜とつかクラブのブリテンによると、横浜湘南YMCAが自ら開発した体操を外出自粛の要請に対応して、自宅で出来るようyoutubeに発信して好評を得ているそうです。

通常は、2頁立ての『WHO リポート』も委縮せずに4頁に増頁して、日頃歩行中に出る質問「ワイズって何ですか？」など15のQ&Aを掲載しました。

写真：再開後に訪れたい、豊洲市場の魚ギャラリー

### クラブ役員

- 会長 篠原 文恵
- 副会長 大野 貞次
- 書記 神谷 幸男
- 会計 高嶋美知子
- 担当主事 横山 弥利

3月の記録		ニコニコ	円
在籍者数	13人	メネット	1人
(内功労会員)	1人	クラブファンド(当月)	1円
出席者数	1人	コメント	1人
メーキャップ	1人	クラブファンド(残高)	165,358円
出席率	—	ビジター	1人
前月修正	—	ホテ校ファンド(当月)	4,200円
		ホテ校ファンド(残高)	62,416円
		WHO参加者	1人

## 4月・5月例会のご案内

4月と5月の第1例会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止を決め、メンバーには4月4日と16日に連絡いたしました。事務局も同様に取りやめました。

6月例会は、例年、総会とホテル学校生への奨学金授与、新年度役員交代式を行っていますが、皆が安心して集える状態になるか見極めて決めます。後日の連絡をお待ちください。

行動は制約がありますが、心は自由に、前をむきましょう。

会長

### 木川さん、横山さんと交代

担当主事の木川拓さんが、YMCAの人事異動で、3月末付けで、新ビジネス立ち上げのためYMサービス株式会社に出向となりました。後任に国際ホテル専門学校スタッフの横山弥利（よこやま・やすとし）さんが着任しました。

横山さんは国際ホテル専門学校のOBで、社会体育専門学校のキャリアもあります。

木川さんは、2018年4月から2年間ではありましたが、毎月の例会でのYMCA報告、『YMCA Today』の執筆を誠意をもって務めていただき感謝です。

担当主事は、ワイズメンズクラブと、協力関係にあるYMCAとの相互理解を深め促進するために、YMCAにおいて任命され、クラブの例会で入会式を行い、ワイズメンとなります。

個人データはブリテンには掲載しませんから、名刺交換するか、新しいロースターを見てください。

### ホテ校奨学生の人選

クラブが毎年行っているYMCA国際ホテル学校の留学生に対する奨学金の贈呈式を例会再開後に行います。

奨学生は、3人を予定しており、その人選を小畑貴裕校長に依頼しています。

奨学金資金（ホテ校ファンド）にご協力ください。

### 神崎清一さんが退任

日本YMCA同盟総主事で、当クラブメンバーでもあった神崎清一さんが、3月末をもって定年退職し、5月には京都の自宅に帰られることになりました。

短い間ではありましたが、色々とおアドバイスをいただき親しい交わりも出来て感謝いたします。今後も東西日本区大会などで、お目に書かれることを楽しみにしております。

（篠原文恵）

### 卓話の貯金が増えています。

クラブの例会卓話の含み資産が増えています。すでにご案内したものでは、黒田知代さんの「子ども食堂」、田上かつみさんの「おはなし」があります。

さらに『令和のレコード鑑賞会』も予定しています。樋口順英さん（東京グリーン）にお願いしたもので、音と映像と樋口さんの解説による名曲鑑賞です。

戦後、町に名曲喫茶と言われるコーヒーショップが生まれ、学校や職場にも「レコード鑑賞」のサークルがありました。今回は、いわば映像付きの令和版です。

樋口さんは、WHO ウオークのリーダーで、歩行中に広重、北斎の浮世絵の解説もされます。

預金は、貯まり出すと貯ると言われます。「卓話貯金」が出来るとクラブ運営に余裕が出ます。超連休中に在宅で貯金を考えましょう。

## YMCA Today

東京YMCA国際ホテル専門学校は3月12日、早稲田奉仕園スコットホールにて117人が無事卒業式を迎えました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら保護者や来賓の方不在の無観客、卒業証書授与を中心とした必要最小限の形となりました。

約1時間の卒業式でしたが、最後に卒業生から担任へ向けてサプライズプレゼントが用意され、笑顔と涙が溢れるアットホームな会になりました。素敵な袴姿、晴れやかな笑顔…、開催出来た喜びと共に、例年とはまた違った忘れられない卒業式となりました。

YMCAの各学校でも当初の予定を変更し、下記の通り学生が卒業しました。

【社会体育・保育専門学校】

3月10日（霊南坂教会）/107人

【医療福祉専門学校】

3月11日（校内）/38人

【高等学院】

3月14日（霊南坂教会）/14人

【にほんご学院】

3月14日（校内）/53人

■2月23日～3月1日、

松本数実主任主事（国際事業統括）他、計4人の職員がミャンマーYMCA同盟、及びネピドYMCAを訪問しました。ネピドYMCAが行うモバイルクリニック等のプログラムの視察、ネピド近郊の村訪問、植樹や道路舗装のボランティアワーク、役員や教会に連なるユースとの交流の時間を持ちました。

今後、ユース同士の交流やスタディーツアー実施の可能性について検討する予定。

（担当主事・木川拓）

やる気情報満載

毎月15日に発信

**Change! 2022**

EMCニュース

ワイズドットコムで配信されます

## ☆☆ インタビュー ☆79☆ 金井宏素さんに聴く

松本クラブ



—松本クラブのメンバーの年齢構成はバランスが良いですね。

「会員は12人ですが、40代から80代まで切れ目がありません。会員同様に動いていただけるビジターさんにも恵まれています」

—金井さんの入会は、2001年ですね。

「そうです。故伊藤義則さんがあずさ部長、クラブ会長は赤羽美栄子さんと、その秋に開催された、1泊高瀬溪谷評議会の手伝いが初仕事でした」

—あの評議会は、90人が参加し、部会に匹敵しました、伊藤さんには、どう言って誘われましたか。

「伊藤さんとは、1994年に伊藤さんの会社に勤務されている方の息子さんと次女が結婚することになり、仲人をお願いした縁でした。『楽しい集まりがあるけれど一度来てみないか』と誘われました」

—実は1998年の秋、伊藤さんのお宅に、次々期部長になっていただきたいとお願いに行ったことがありました。その時、伊藤さんは『クラブに相談するから、ちょっと待ってくれや』と言われて、部長になれる前に4人を入会させました。金井さんは、そのお一人ですね。

「そういうことだと思います。すでに伊藤さんの紹介で別の国際奉仕団体に属していましたから躊躇していると『合わなければすぐやめても構わないから』とソフトに諭され、軽い気持ちで一応入会しました」

—お生まれは松本ですか。

「生まれも育ちも松本ですが、本

籍は1954年の合併で編入した長野県東筑摩郡入山辺村です」

—子どもの時は。

「兵隊さんに憧れた普通の子だったようです、小学校2年で終戦を迎え、それまでの教科書の特定文言を墨で塗りつぶして使いました。本を読むことが好きでしたね」

—お仕事は医療機器、理化学器械を扱う会社を運営されていました。金井さんは元々そちらの方がご専門だったのですか。

「私は片田舎で代々続いた小規模農家の跡取りでしたが、1957年工業高校卒業と同時に松本市内の医療機器店にメンテナンス要員として就職しました。医療機器の黎明期で電子工学と医学が融合した製品が数多く開発された時期で、技術専門職が必要になったのでしょう。業界紙に『心電計技術部新設』という見出しで紹介されました」

—どんな製品を扱われました。

「病医院で使用する診断、治療用機器はすべて扱っていました。具体的には内視鏡、生体監視装置、検査分析装置、ペースメーカー、人工関節等インプラント材料でした。対象は大学付属病院をはじめ県下の医療機関です、仕入れ先は主に東京。本郷は医療機器のメッカで、関連の業者が軒を連ね、同業協会の会館もあって頻繁に通いました、入社当時技術研修で2か月ほど本郷弓町のメーカー社長宅に厄介になったことがあります。後楽園からナイターのどよめきが聞こえる閑静な住宅でした」

—日進月歩の業界ですね。20年近く社長を務められました。

「1961年に国民皆保険制度が始まり、新しい機器が医学の進歩に寄与し、さらに新しい器械器具が必要とされる好循環が生まれました。店の世襲後継者が別の進路を選択されたので、要請され、1990年、3代目社長に就任、会長を経て2013年に退任しました」

—社屋を安曇野に移されました。山や草花の写真が得意の金井さんには、絶好でしたね。

「1998年、同業社と合併して安曇野市豊科に営業・物流拠点を設け、本社も移転しました。近くに白鳥の飛来地がありました。豊富な湧水と北アルプスが織りなす景観も美しく、写真撮影には良い環境でした。写真は内視鏡、顕微鏡等生業を通して興味を持つようになりましたが、我流です」

—ご自宅の町名は、“入山辺”。由緒がありそうですね。

「松本の東、美ヶ原高原の麓で合併前の村名です。村は城下町への薪炭供給地で林業が盛んでした、家業は養蚕、稲作、果樹等を営む農家した。人手不足でやめて、今はアンズやウメを植えています。古い家屋は江戸時代の寒村農家の特徴を残して今も現役です。友人とミニコンサートや茶会や、IBCの台湾花園クラブが来日した時は歓迎会にも使ってもらっています」

—2011-2012年度、あずさ部長を務められました。思い出は、やはり“事務所”事件でしたか。

「そうですね。ワイズは俗世の不祥事とは無縁と思っていましたから大事件でした。しかし比較的短期間で収束に向かったのは、関係された方々の献身的努力の結果だと思いません。後日全額返済完了を聞いた時は、心の底からホッとしました」

—お孫さんが北海道で野生動物を研究されていて、地元のワイズメンとも接点があるとか。

「孫の隼人は小さなころから動植物に興味があって、帯広の大学で学ぶことになりました。2011年度部長で同期の山下真さん(十勝)には、何かとお世話様になっています。ワイズならではの不思議なご縁です」

—金井さんはワイズを多角的に楽しんでおられるように思います。ワイズの魅力は。

「競争社会と一線を画しているところでしょうか」

—座右の銘など決断の時に浮かぶ言葉はありますか。

「『最善を尽くす』です」

—有難うございました。(吉田明弘)。

## 私の大切な物④ 村野絢子

### 大皿と赤いハト

この二つはどちらも ICY でわが家にステイした来日生のお土産である。青い大皿は、オーストリア人のカホリンが家について1週間後、叔父様の焼いた作品が壊れないで届いたと喜んでいたので思い出す。モダンな柄の見事な作品でめったに使えない。カホリンはインスブルックからきて1年間、家族として過ごした。音楽の先生の紹介でフルートを習った先生はからかって「お願いします」を「いただきます」と、「ありがとうございました」を「ご馳走様でした」と教えられたと憤慨していた。また英和の小学部に案内した時には、1年生も1クラス40人いるのに驚いていた。オーストリアでは20人だという。スキー場ではみんな休まず滑っているのに目を丸くしていた。建築家の父親ペーターとカホリンの兄シュテファン、ペーターの仕事仲間の3人が訪ねてきて、東京の建築を楽しんで帰った。30年前の思い出である。

写真左は、ガラス製のハトの置物。窓際で日光を浴びて20年、気持ちよさそう。そばかすで、いたずらっ子の目をしたピッピの人形が寄り掛かっているのが面白い。このハトを運んできたのはフィンランド人のアルト君。

背の高い青年で居間のソファに寝そべるのが大好き。和泉と場所取りをし、遅く戻った方は床の絨毯に寝そべることになった。やはり両親が極東の日本に興味を持ち、訪ねて来られた。彼は半年の滞在であった。数年後、仕事で東京に来たと寄ってくれたが、カプセルホテルに泊まっていると話した。

多くの来日生が我が家に来た。品物や写真は思い出を引き出ししてくれる。



## 走れ！メラニン！

鳥越成代

昨年の夏であったか、テニスコートサイドで仲間とお喋り中、顔のしみの話になり、70代の男性が、最近、顔のしみを取る手術をしたという。簡単だからと近くの形成外科を勧められた。

確かに、私は子供の時からアウトドア派で、日に焼けることを気にしたことがなかった。さすがに今ではアウトドアではフェイスマスクをすることが多いが、後の祭りである。

若い時は前田美波里が海辺で真っ黒に日焼けして、化粧品のコマーシャル写真に出ていたから、就職後も同僚の男性に仕事の激励として「走れメラニン」などと言われても、気にしていなかった。

今はかなり後悔しているが、仲間も見ると見かねて手術を勧めてくれたのかもしれない。

50代の頃、ある医科大学で皮膚科の先生の講演会があった。友人と馳せ参じていた。テーマは忘れていたが広い講堂がほぼ女性で埋まっていた。

若い、せいぜい40代の男性が登壇し自己紹介後に「いやあ、今朝はびっくりしました。母が、今日私に講演があることは知っていて、「私もしみを取りたいけれど、やってくれる？」と聞いてきたのです。彼女もう70歳ですよ」と爽やかに笑って言いました。当然会場は冷たい失笑。

講演後、友人とお茶を飲みながら「男の子ってだめね」と男の子を持つ友人。「それより医者としてだめでしょう」と、当時もしみだらけの私。

今頃、あの講演者は元気な70代80代の女性のみならず男性の患者さん達と日々接しておいでもかもしれませんね。母上はすべすべのお肌で、お元気に卒寿をお迎えなのではないでしょうか。

## 編集後記

大変な時期の中発行することが出来ました。

予定していました多くの行事がコロナウイルスのため中止になり、予定していた記事が掲載できない中、寄稿していただいた方々に感謝申し上げます。

3月の例会に始まり4月の例会も中止、事務局も開くことが出来ず、お伝えすべき内容が限られ、また印刷する会場も閉鎖とすることで、印刷は高嶋さんの会社の印刷機を使わせていただきました。感謝です。

早く例会が開かれることを願っています、そして皆様と笑顔でお会いすることを楽しみにしています。

私が務めている幼稚園では、対策として3月末には始業式を5月6日に、入園式を5月7日に変更していますので、今は園児が来ませんので、安心です。(T/O)